
あの世の話

雪芳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あの世の話

【Nコード】

N3870J

【作者名】

雪芳

【あらすじ】

どうやら、あの世に来てしまったらしい。

目覚めると彼は、目映い光のなかにいた。塩で出来たように白い大地がどこまでも果てなく伸びて、薄く霞んでいる。

彼の前には巨大な門が天高く立ち、傍らには一人の老人が佇んでいた。老人は白髪だらけで、しわくちゃで、男なのか女のか解らない。ラムネの中のビー玉のような目を彼に傾けながら老人は、ニコリと目を細めた。

幻想的な景色、得体の知れない老人に、彼は自分がどこにいるのか悟った。きっと、死んでしまったのだろう。ここは死者の世界だ。門前に立つの以前のことかふいに彼の脳裏を走った。

振り返れば振り返るほど、何かあったといえなかったし、何も無いといえはない、そんな人生であったように思う。

世の中に名を残すことなく、特に証を残すことなく死んだ。未練があったような、なかったような。

百年たてば存在事態が不特定多数に含まれるような生き方。要は、極めて普通の人生だ。

唯一、少しズレていたのは、自殺したことくらいだろうか。最期ばかり少し個性的であった。それでも、毎日何十人出る個性ではあるが。

そこまで振り返って、彼は頭を抱え込んだ。自分はなんて愚かなことをしたのかと、彼は重たくのし掛かる感覚に膝を落とした。まさか、あの世が本当にあるなんて。

途端に彼はメソメソと泣き始めた。後悔しても遅いと地に伏せる。すると老人は、首を傾げた。そして、「どうして泣いているのか」と彼に問いかけた。

「後悔してるんです」

彼は語り始めた。

あの世というものがあるのだと知っていたら、自分は間違いなく自殺をしなかったろう。自殺をすれば天国に行けずに地獄へ落ちると言われている。

つまりもう、天国へは行けないのだ。これから自分を待つのは、苦行の世界『地獄』である。

痛くて苦しいなんて……、これからのことを考える彼。傍らの老人に彼は、地獄へ落とすのでしょうか！ と叫んだ。

すると老人は奇妙な態度を返した。腹を抱えるようにして、笑ったのだ。

そんなに私の不幸が楽しみですか、恨めしそうに彼が言う。あなたは悪魔ですね……、と。

しかし老人は、彼の恨み言にこう答えた。

何言ってるのか。今までいたところが、地獄だろうに。

（後書き）

2008年製作。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3870j/>

あの世の話

2011年10月3日14時40分発行